



## つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 292号 2011.3.15 発行 社会政策研究所

=====

大阪手をつなぐ育成会で災害義援金を募集中です。  
義援金の受入口座 郵便振替 口座記号 00900-0 口座番号 8647  
【口座名義】社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会  
詳しくはホームページ <http://www.osaka-ikuseikai.or.jp/index.html> をご覧ください。

大震災関連の情報は順次お知らせしています。最新情報をご確認ください。【kobi】

### ボランティアセンターきょう開設 仙台市社協

河北新報 2011年3月15日

仙台市社会福祉協議会は15日、ボランティア希望者の活動の調整業務を行う「災害ボランティアセンター」を仙台市内に開設する。希望者の殺到など混乱を避けるため、まず災害ボランティア経験者や保健師らを募る。

1カ所目の現地センターを、宮城野区新田東の宮城野体育館障害者アリーナに設置。開設時間は午前9時～午後3時。希望者は現地センターまで出向いて書類提出し登録することが必要。連絡先は022(231)1320。

当面は宮城野区などの避難所で、被災者の総合支援に当たってもらうという。現地センターは若林区や太白区でも開設の準備を進めている。

総合的な情報収集を担うセンターも同日、青葉区の市福祉プラザ4階に設置。ボランティア希望者への情報提供やボランティアの要望把握を担う。連絡先は022(262)7294。メールはsvc-yousei@shakyo-sendai.or.jp

一方、宮城県災害ボランティアセンターは現在、災害ボランティア希望者の受け入れを中止している。警察や自衛隊などによる救助活動が一段落してから、被災地の後片付けや福祉、医療などに従事する人員を募る。募集情報は県社会福祉協議会のホームページに掲載する。

### 今井絵理子、自身の日記に障害者への避難支援マニュアル掲載

パークスニュース 2011年3月15日

SPEEDのメンバーとして、そしてソロアーティストとして、または礼夢君の母親として頑張る今井絵理子。彼女のオフィシャルサイトの日記に、障害者への避難支援マニュアルが掲載されている。元々は、彼女のオフィシャルサイトのBBSにファンが書き込んだ内容のようだ。以下、その内容を転載させていただく。

#### 1.視覚障害者の誘導方法

肩や腕を貸す形で、半歩前を歩いてください。

視覚障害者を押ししたり引っ張ったりしないでください。

誘導しているとき、周りの状況を伝えて下さい。  
方向を示す時は、時計の針の位置で伝えて下さい。  
(例えば、時計の文字盤による方向は、右は3時、左は9時、正面は12時と考えます。)

## 2.聴覚・言語障害者の支援方法

耳が聞こえない人は、外見ではすぐにわかりにくいです。  
家に来られても、音や声ではわかりません。  
懐中電灯などで照らして下さい。  
障害を持った方々は、笛を吹いたりして知らせます。

### 【コミュニケーションの方法】

●筆談(ひつだん、紙に書いて伝える):  
筆記用具がなければ、相手の手のひらに指先で文字を書いたり、  
空間にゆっくりとひらがなで字を書きながら口を大きく開いて話し  
かけてください。●読話(どくわ):  
あなたが話す口の形を見て、内容を理解します。  
障害を持つ方の顔(正面)を見て、口を大きく開いてはっきりとゆ  
っくり話しかけてください。ラジオの情報を伝えてください。  
避難所で食事の配給などの音声情報が入りません。



## 3.身体障害者・肢体不自由者(車椅子など)の支援方法

家が住めないような状態や火事にならない限り、在宅で過ごす人が多いと思われ(安  
心した福祉・医療機器の設置等完備)。  
水や食料の配達をお願いします。  
エレベータが止まると、他の階に階段を使用して移動することができません。  
援助者が複数必要です。車椅子の押し方や避難の方法は、障害者(及び家族)と相談して  
ください。  
見た目では、ハンディがあると解らなくても、呼吸器や内臓に疾患がある人・膀胱や直腸  
に障害のある人などいます。  
そういった人が困っていたら、緊急連絡先に連絡して、その後の対応に協力して下さい。

## 4.精神障害者・知的障害者の場合

パニックに陥っているときは、「大丈夫」「安心して下さい」や、「助けに来たよ」と声  
をかけ、安心・落ち着かせてあげてください。  
現在の場所にいることが危険な場合は、避難場所など、安全な場所まで連れて行ってくだ  
さい。  
話し方については、解りやすく簡単な言葉を使ってください。話は短く切って、一問一答  
のように確認しながら行ってください。できるだけ早く、家族や施設・通所先に連絡を取  
ってあげてください。

なお、今井絵理子の日記によるとSPEEDのメンバーは全員無事とのこと。また、今井  
は、自身のサイトのBBSやTwitterなどを通じて、みんなでできることを一緒に考えよう  
と呼びかけるとともに、「できるかぎり、私ができることは形にしたいと思っている!」と  
コメントしている。

現在、日本中が一致団結し、そして世界からの祈り“pray for Japan”を受けて、未曾有の  
大災害となった東北地方太平洋沖地震と、それに付随する幾多の困難に立ち向かっている。  
多くのアーティストはもちろん、日本に住むひとりひとりが、募金や節電(通称:ヤシマ  
作戦)など、できる限りの、思い思いの形で。

**主張：被災者多数 辛苦を分かち合う覚悟を**

産経新聞 2011年3月14日

東日本大震災は時間を経るごとに、信じ難い数字とともに猛威の全貌が明らかになってきた。

同時に、震災の影響で電力供給が大幅低下する見通しとなり、政府は14日から異例の措置として「輪番停電」を実施する計画を了承した。

巨大津波の直撃を受けた宮城県の犠牲者は「万人単位」にのぼるといふ。市街の大半が壊滅した岩手県陸前高田市でも多くの遺体がみつかった。

東北地方を中心に太平洋岸の広範囲にわたるがれきや泥の下でどれだけの人が被災しているのか。悲しい現実は今からさらに膨らむと予想される。35万人以上の市民らが地震や津波で家や資産を失い、避難所で不自由な生活を送っている。

今、まず急ぐべきは、一人でも多くの人命を救い、物資不足の寒い夜を避難所で耐えている被災者への救援活動だ。

被災現場は余震が続き、津波の恐れも去っていない。2次被害の可能性もあり、自衛隊、警察、消防、医療スタッフなどプロの手に任せるしかないのが現状だ。避難所では水や食料、燃料などの生活物資の不足が深刻化している。

近隣自治体の援助を受けようにも、周囲はどこもかしこも被災しているため備蓄分では全く足りない。全国から寄せられる支援が頼りなのだが、道路の多くが寸断されているうえに、渋滞が到着を遅らせている。

肉親などの安否を「現地で確認したい」と必死の思いでハンドルを握る人がいるかもしれない。あり余る善意でボランティア活動のために北を目指す人もいるだろう。だが今はまだ、自己完結できるプロの組織に任そう。彼らの活動の妨げになってはいけない。

地域ごとに交代で停電する「輪番停電」に踏み切るのは、電力供給が需要に追いつかない情勢となったためだ。自宅で医療機器を使う人への発電機の貸し出しなどを含めて、初めての運用だけに周到な対応を求めたい。

被災地以外の地域でも、生活や経済活動に多大な影響が生じる。それでも避難所生活の人々の困窮を思い、電気製品の不必要な使用は控えたい。

「国難」といふべき大災害に、すべての国民が辛苦を分かち合うことも大切な支援だ。地震国日本の対応を各国が注目している。見事に立ち直ってみせよう。

## 社説：救助と支援 被災者へ十分な生活物資を

読売新聞 2011年3月14日

今も寒さの中で、大勢の人たちが救助を待っている。大地震の発生から2日が過ぎた。救出を急がなくてはならない。

全国から警察や消防職員らが駆けつけた。政府は自衛隊の派遣を10万人に拡大する。

米国、韓国、シンガポールなど外国からの救助隊も続々と到着し被災地に入った。

建物屋上で孤立していた人たちがヘリで救出されたり、沖合15キロで漂流していた男性が2日ぶりに自衛艦に助けられるなど、救助の知らせが各地から入っている。

犠牲者は宮城県だけで1万人を超える、との見通しもある。だが今は、一人でも多くの救出に全力を尽くすべき時だ。

自宅や公共施設などに残っている人たちへは、十分な食料や薬などを届けてほしい。

各地の避難所でも、計30万人以上が身を寄せ合っている。

避難所だけで1日100万食近い食料が要る計算だ。パン、おにぎりなどが十分に届いていないという。給水車が未到着で、水の確保にも困る所が少なくない。

自治会組織の炊き出し支援なども行われているが、限界がある。食料や衣類など、生活物資を迅速かつ優先的に被災地へ送る態勢を確保しなければならない。

ライフラインも寸断された。13日夜も、東北地方などで150万戸以上が停電している。水道、ガスも各地でストップしている。復旧を急いでもらいたい。

原発事故の影響で、東京電力は管内の各地域で順番に電気を止める計画停電を実施する。

医療機関や、自宅で医療機器を用いて療養中の患者らに悪影響が出ないようにする必要がある。

これからは被災地でのボランティア活動が重要になってくる。阪神大震災や新潟県中越地震でも、避難所や各戸を回っての様々な支援活動が、大きな力となった。

政府は、災害ボランティアの総合調整をする首相補佐官に、NPO出身の辻元清美衆院議員を任命した。窓口を一本化し、被災地のニーズに合った計画的な派遣体制を作ることが求められる。

一刻も早く駆けつけたいという人が全国に大勢いるだろう。被災地に義援金を送る運動も一斉に始まった。

大災害から立ち直り、復興に至るまでの闘いが、長期戦になることは間違いない。国民全員で被災地を支えていくことが大切だ。

## 社説：マグニチュード9.0 救助と水と食料と薬を

朝日新聞 2011年3月14日

日本がいま直面しているのは、超級の規模の震災だ。「マグニチュード9.0」という地震のエネルギーだけでない。痛みも、悲しみも、その大きさは計りしれないほどだ。

でも、負けるわけにはいかない。

壊滅に近い被害を受けた地域の様子が、少しずつわかってきた。宮城県南三陸町は、町民の半数以上の安否が不明なままだ。岩手県大槌町は、町長とも連絡がとれていない。

「とにかく地獄。見た者じゃなきゃわからない」とつぶやく男性がいた。水の中を逃げる時、握りしめた手が離れたきりの、妻を捜す男性がいる。「お母さんを捜してください」と、泣き叫ぶ少女がいる。

取り残された生存者の救助を、まずは急がなければならない。

交通も通信手段も断たれた中、見落とされている場所や人はないか。救助要員やヘリコプターは足りているか。主力となる自衛隊は史上最大規模の展開をとろうとしている。

各地の避難所には、きのう現在で三十数万人の人がおり、阪神大震災時のピークを超えた。福島原発の状況も予断を許さない。救援の拡大とともに、避難者数はさらに膨らみ、長期化するのには必至だ。

大量の救援物資 水、食料、医薬品、そして燃料が必要だ。

孤立している場所にヘリや船で届けることに加えて、広範な被災地域に長期にわたって供給するための本格的な態勢を築かねばならない。

現地でスーパーやコンビニが果たす役割は大きい。農林水産省は食品メーカーの協力を求め、食料を運ぶ準備を進めている。トラック・運送業界あげての緊急物資輸送も始まっている。

燃料も、病院の自家発電機や避難所での暖房用など、命に直結する物資だ。また、今後は仮設住宅も大量に不足するだろう。住宅メーカーは増産を急いでほしい。

被災地では、役場の機能が失われてしまった自治体が少なくない。後方の自治体からの職員派遣や、疎開者の受け入れなど、行政の枠や県境を越えての協力が求められてもいる。

きのうは片山善博総務相が現地を視察した。支援に死角や混乱が生まれないよう、政府の調整力が重要だ。

被災していない地域の市民にも、すべきことはたくさんある。

電力不足のため、政府は国民に節電への協力と、計画停電への理解を求めた。義援金の窓口も設けられた。幾多の災害を経験した私たちは、しなやかな共助社会を培ってきたはずだ。

M9.0への地震規模の修正は、予想される余震の規模も大きくなるということだ。次の大災害がいつ、どこを襲うかもわからない。

日本全体の心構えが問われている。

## 社説：計画停電 我慢と共助のときだ

朝日新聞 2011年3月15日

太平洋沿いの被災地で救出活動が続く。数十、数百と遺体が見つかり、つらい現実を突きつけられる。厳しい避難所生活も始まっている。長丁場の助け合いへの決意を、国民全体で共有することが欠かせない。

被災は列島の広範囲に及んでいる。週明けの関東圏は、早朝から混乱に見舞われた。震災で電力不足に陥った東京電力が地域ごとの「計画停電」を発表し、JRをはじめ鉄道各社があわてて運休や間引き運転を決めた。

朝起きてみたら通勤の足がなくなっていた、という人たちも少なくなかった。限られた運行路線では各駅がごったがえした。

それでも多くの駅では人々が辛抱強く列をなし、黙って満員電車に揺られた。がれきの中で十分な暖もなく、一生懸命に家族をさがす被災地の人たちを思えばこそ、「この程度のことだ」と自制する気持ちが整然とした行動につながったようだ。

電力が足りなくなることは、大震災の当初から明らかだった。計画停電や節電による生活への影響を甘受してでも協力したいと考える人は少なくないはずだ。だからといって、やぶから棒なやり方ではいけない。

地域と時間を前もって知らせ、家庭や企業に準備を促すことが必要だ。そのほうが混乱を防げるだけでなく、節電の効果も上がるだろう。

停電でとりわけ心配なのは、人工呼吸器など医療機器を必要とする人たちだ。入院患者に限らず、在宅療養している人たちにとっても、停電が長引けば命にかかわりかねない。

混乱を生んだ理由について、東電側は「停電を避けようと最後まで調整したため」と説明した。だが、計画停電をあらかじめ知らせておいた地域で結果的に停電がなかったとしても、それで怒る人は多くないはずだ。事前の周知を優先したい。

東電管内では当面、恒常的な電力不足が続くことに変わりはない。企業も役所も家庭も、みんなで節電に取り組むべきであることは論をまたない。

都心部の銀座では夜になっても商業施設の照明やネオンが目立った。まだまだ節電の余地はある。政府は、企業や学校などに思い切った休業や節電を呼びかけ、どこまで成果が上がるかをまず試してみてはどうか。

ピーク時の消費電力を下げるためには、さまざまな手法を駆使しなくてはならない。

未曾有の災害のただ中で、私たちには不便さや我慢を引き受ける覚悟がある。だからこそ政府に求めたいのは、国民の生命と財産を守り抜き、かけがえのない生活を混乱から救い出すことである。

明確な指針を早く決め、国民の共助の力を大きく引き出してほしい。

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行